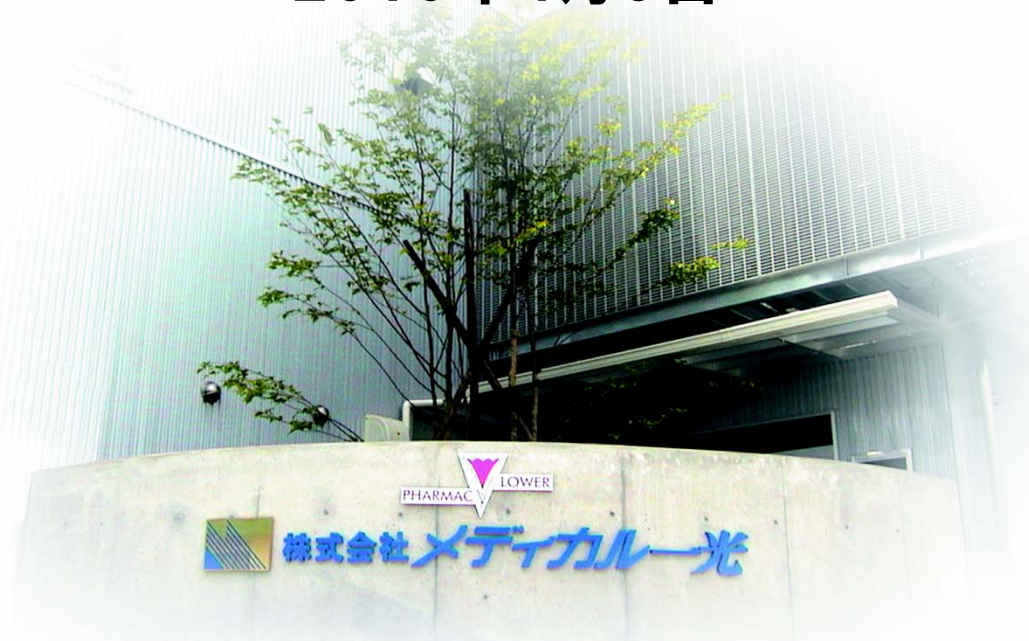


# 株式会社メディカルー光

2010年2月期 決算説明会

2010年4月9日



代表取締役社長 南野 利久

**JASDAQ**

(証券コード : 3353)

## **I. 2010年2月期 決算概要**

## **II. 今後の事業戦略等**

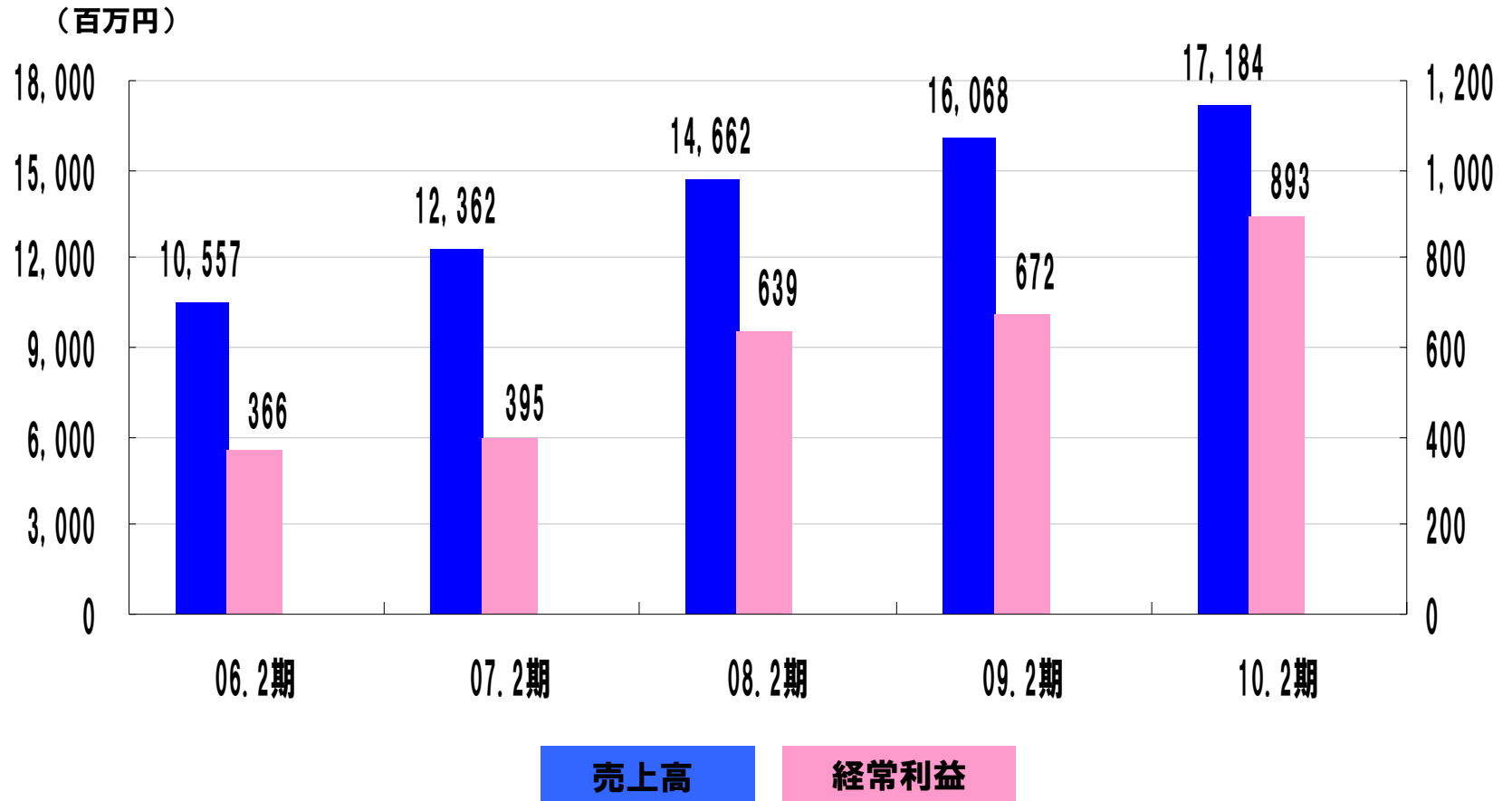
## **III. 2010年2月期 決算詳細**

# ■ 連結損益計算書

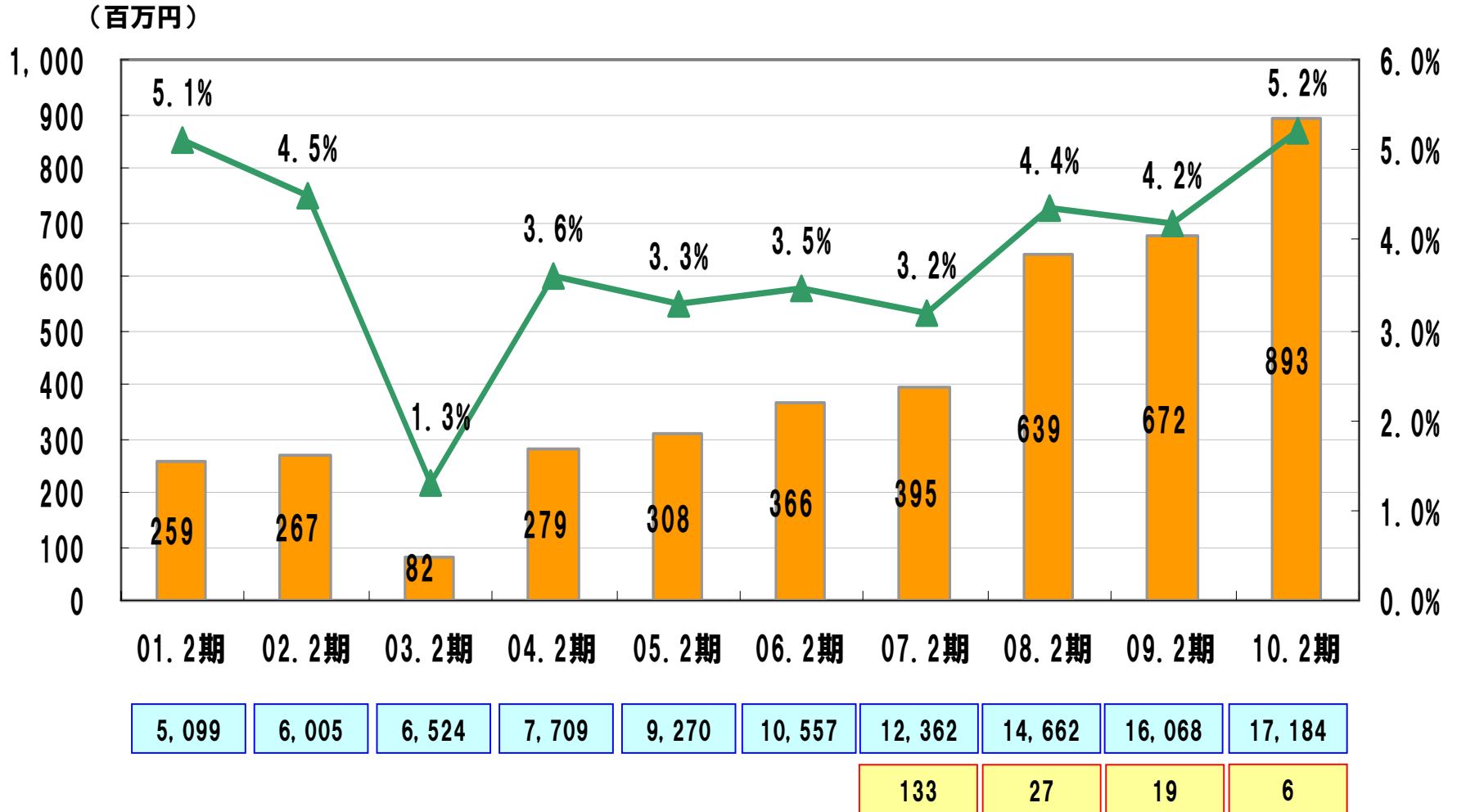
(単位:百万円)

	2008年2月期		2009年2月期		2010年2月期		前期比	
		百分比		百分比		百分比	増減額	増減率
売上高	14,662	100.0%	16,068	100.0%	17,184	100.0%	+1,116	+6.9%
売上原価	13,128	89.5%	14,430	89.8%	15,314	89.1%	+884	+6.1%
売上総利益	1,533	10.5%	1,638	10.2%	1,870	10.9%	+231	+14.1%
販管費	821	5.6%	888	5.5%	894	5.2%	+5	+0.6%
営業利益	712	4.9%	749	4.7%	975	5.7%	+225	+30.1%
経常利益	639	4.4%	672	4.2%	893	5.2%	+221	+32.9%
当期純利益	289	2.0%	329	2.0%	457	2.7%	+128	+38.9%

## ■ 売上高・経常利益の推移(連結)



# ■ 経常利益の推移



※ 売上高 減損損失

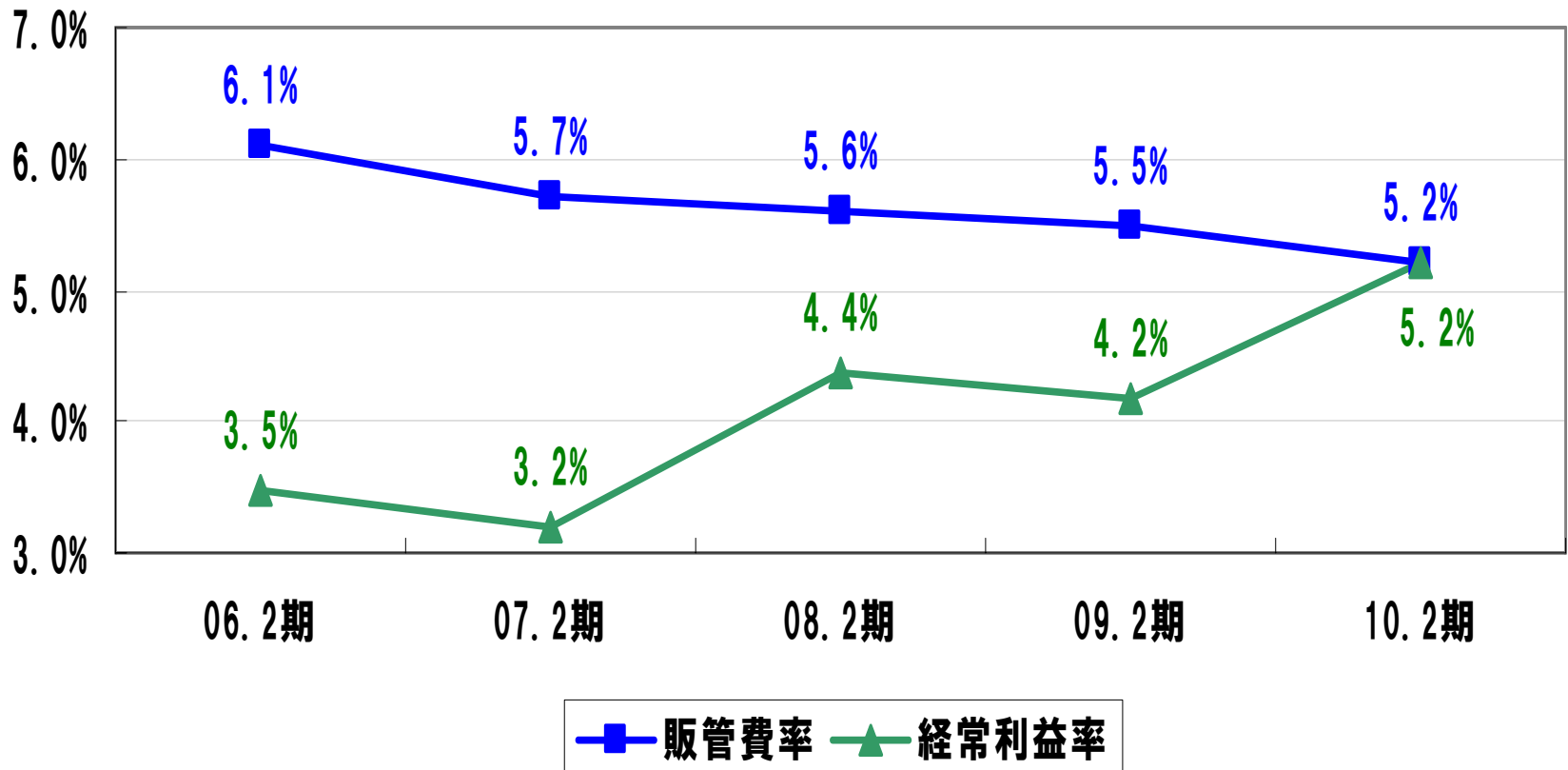
■ 経常利益 ▲ 経常利益率

## ■ 業績推移

(単位:百万円)

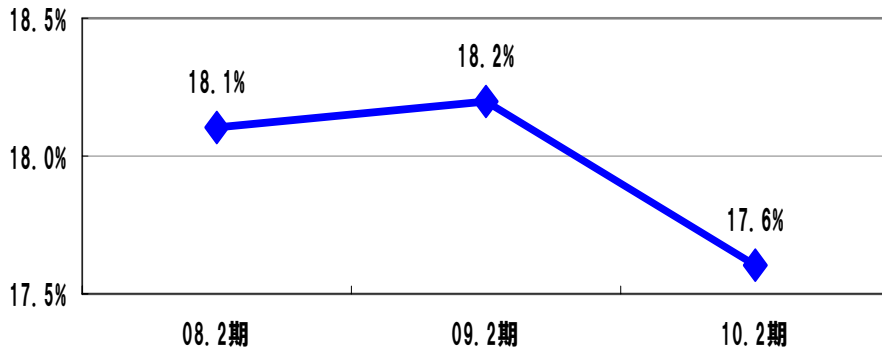
	売上高	経常利益	平均経常利益
01.2月期	5,099	259	263
02.2月期	6,005	267	
03.2月期	6,524	82	181
04.2月期	7,709	279	
05.2月期	9,270	308	337
06.2月期	10,557	366	
07.2月期	12,362	395	517
08.2月期	14,662	639	
09.2月期	16,068	672	782
10.2月期	17,184	893	

## ■ 販管費率・経常利益率の推移

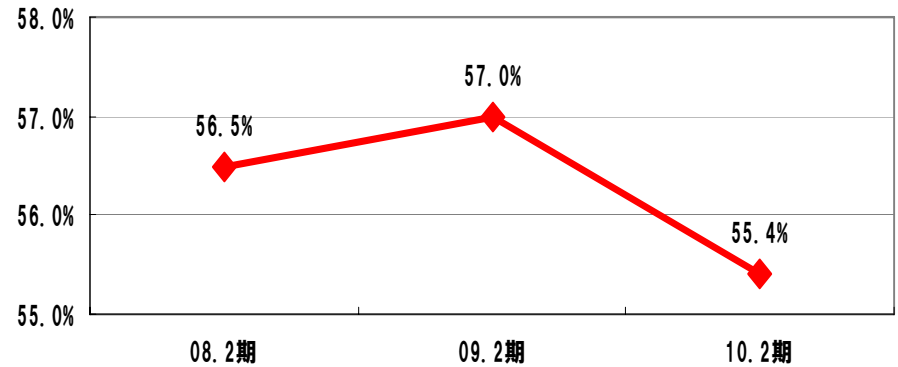


## ■ 人件費率の推移(連結・3期比較)

対 売上高人件費率



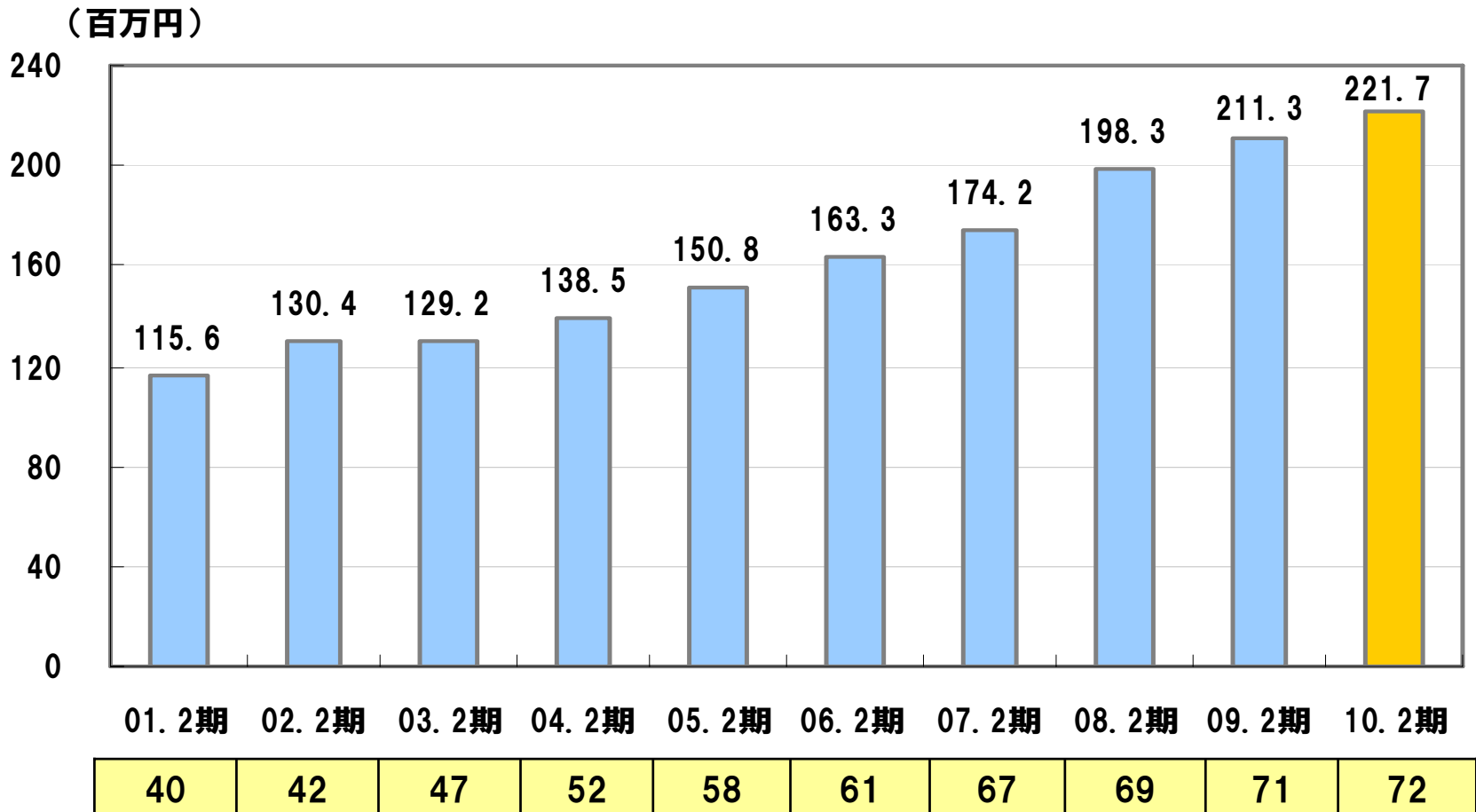
対 粗利人件費率



	08年2月期	09年2月期	10年2月期
対 売上高人件費率	18.1%	18.2%	17.6%
対 粗利人件費率	56.5%	57.0%	55.4%



## ■ 調剤薬局 1店舗当たりの年商推移



※ 調剤薬局店舗数(期末)

## ■ 総還元性向

	05.2期	06.2期	07.2期	08.2期	09.2期	10.2期
①当期純利益（千円）	166,264	176,793	46,335	289,453	329,224	457,331
②配当金（円）	3,600	3,600	3,600	4,000	5,000	3,500
③発行済株式数	8,975	8,975	8,975	10,175	10,175	20,350
④自己株式数	0	0	197	197	485	1,102
⑤発行済株式数-自己株式数	8,975	8,975	8,778	9,978	9,690	19,248
⑥配当総額（千円） ②×⑤	32,310	32,310	31,600	39,912	48,450	67,368
⑦自己株取得額（千円）	0	0	66,291	0	86,971	25,872
⑧総還元額合計（千円） ⑥+⑦	32,310	32,310	97,891	39,912	135,421	93,240

総還元性向（⑧÷①）×100%	19.4%	18.3%	211.3%	13.8%	41.1%	20.4%
-----------------	-------	-------	--------	-------	-------	-------

単純配当性向	19.4%	18.3%	68.2%	13.8%	14.7%	14.7%
--------	-------	-------	-------	-------	-------	-------

減損損失（千円）			133,425	27,522	19,311	6,342
----------	--	--	---------	--------	--------	-------

自己株式取得総額 179,134千円

## **I. 2010年2月期 決算概要**

## **II. 今後の事業戦略等**

## **III. 2010年2月期 決算詳細**

## ■ 薬価、調剤報酬改定の影響

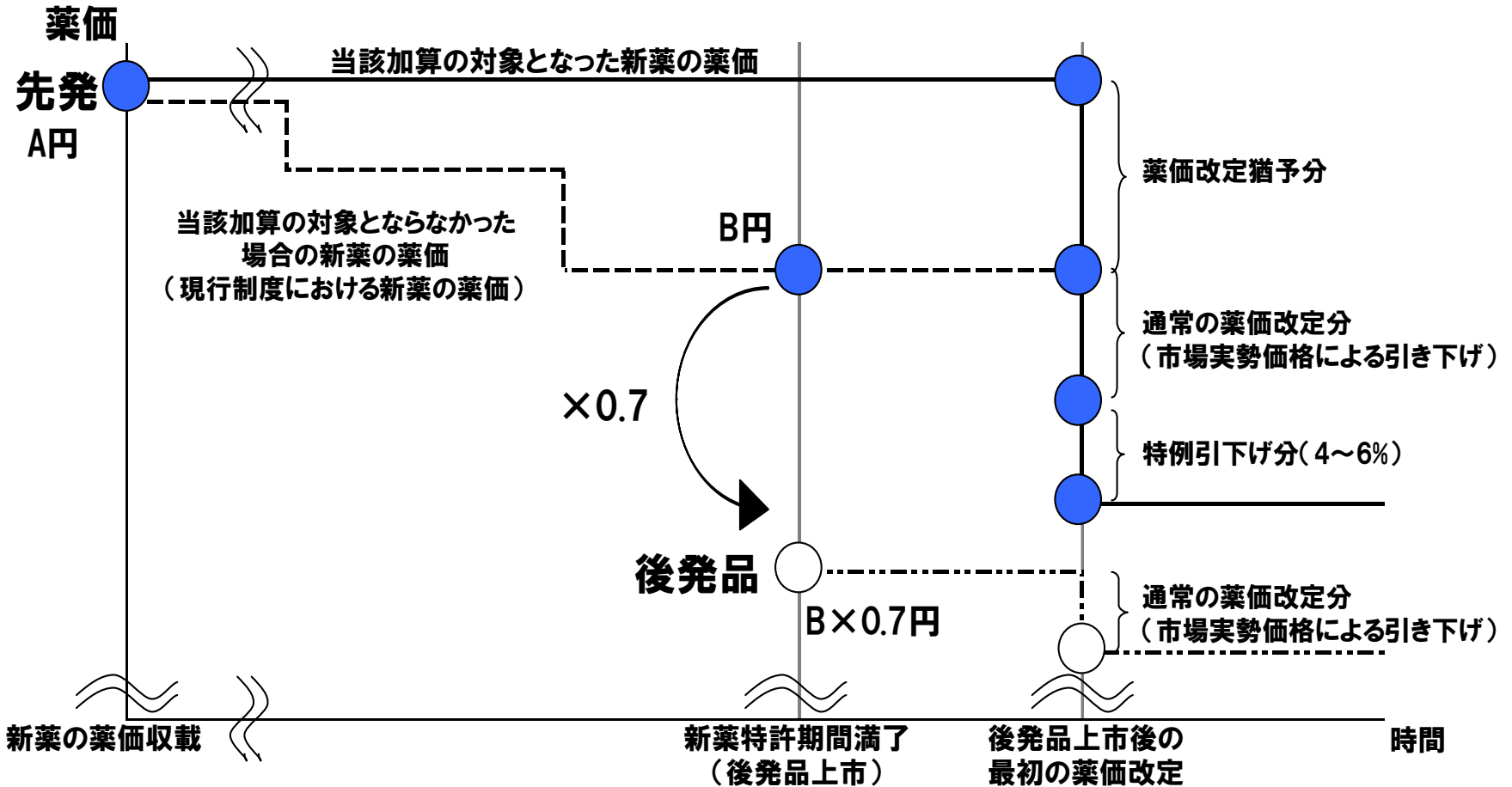
### 処方箋一枚の単価



↑  
プラス改定 40円

↑  
縮小 400円

# ■ 新薬創出・適応外薬解消等促進加算



## ■ 薬価改定

- 財源効果▲4,800億円
- 薬価調査における平均乖離率 約8.4%
- 薬効別乖離率(内用薬)
 

– 血圧降下剤	9.4%
– 消化性潰瘍剤	9.9%
– 高脂血症用剤	9.8%
– 血管拡張剤	10.8%
– 精神神経用剤	8.2%
– アレルギー用剤	9.7%
– 糖尿病用剤	8.6%
– 血液・体液用剤	8.6%

## ■ 後発医薬品調剤体制加算

### 1. 要件の変更

○調剤した医薬品について薬価収載上の規格単位ごとに数えた数量により

1	20%	6点
2	25%	13点
3	30%	17点

### 2. 注の追加

(1) 薬局の在庫管理の負担を軽減する観点から～別剤形の後発医薬品～

- ① 変更調剤後の薬剤料が変更前と同額又はそれ以下であり
- ② 患者に説明し同意を得ること

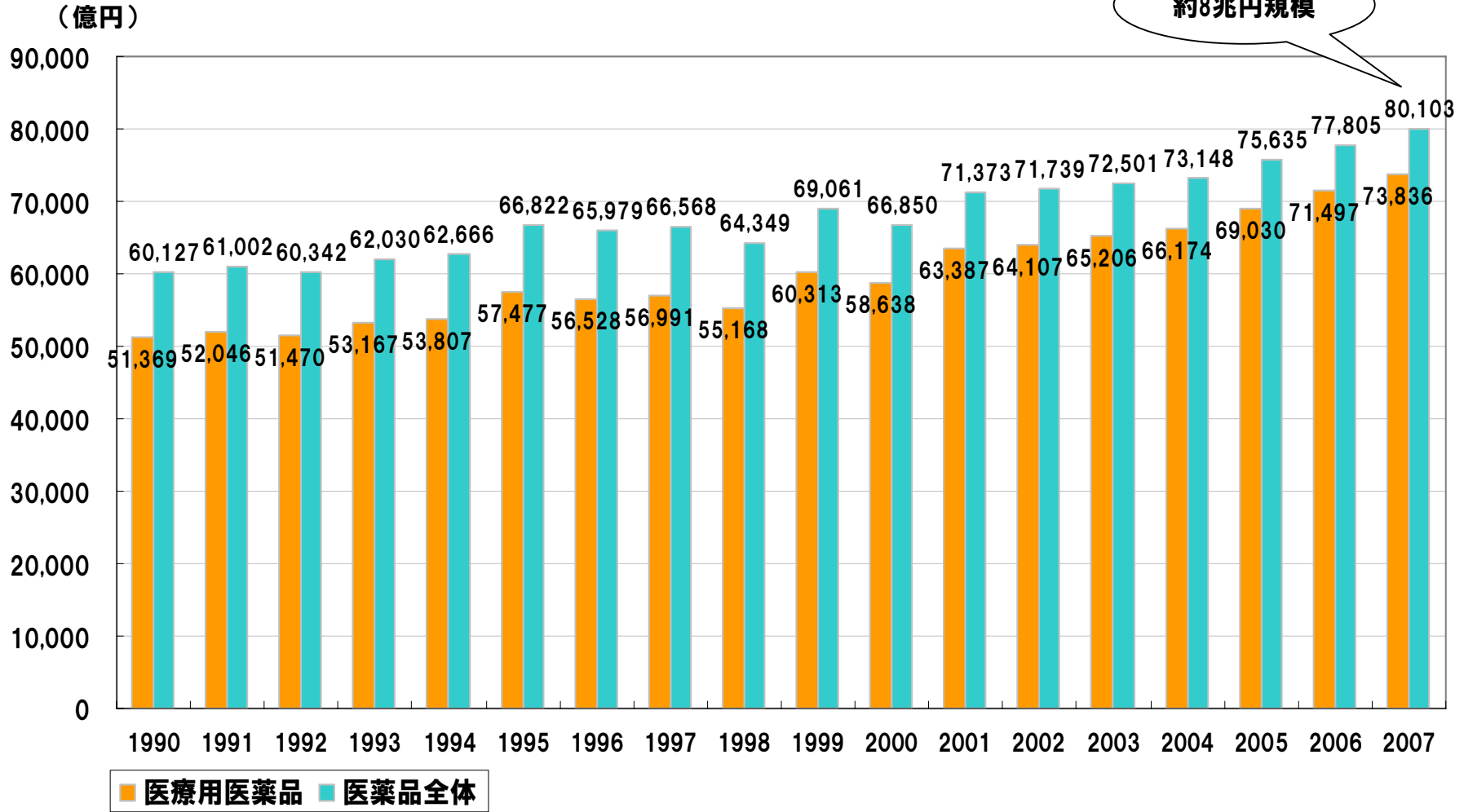
(2) 同様の観点から～類似した別剤形の後発医薬品の調剤を認めること～

- A. 錠剤（普通剤）、錠剤（口腔内崩壊剤）、カプセル剤、丸剤
- B. 散剤、顆粒剤、細粒剤、末剤、ドライシロップ剤
- C. 液剤、シロップ剤、ドライシロップ剤

尚、外用薬は処方医への確認を要しない変更調剤の対象外とする。

# ■ 医薬品産業(医薬品市場規模の推移)

約8兆円規模

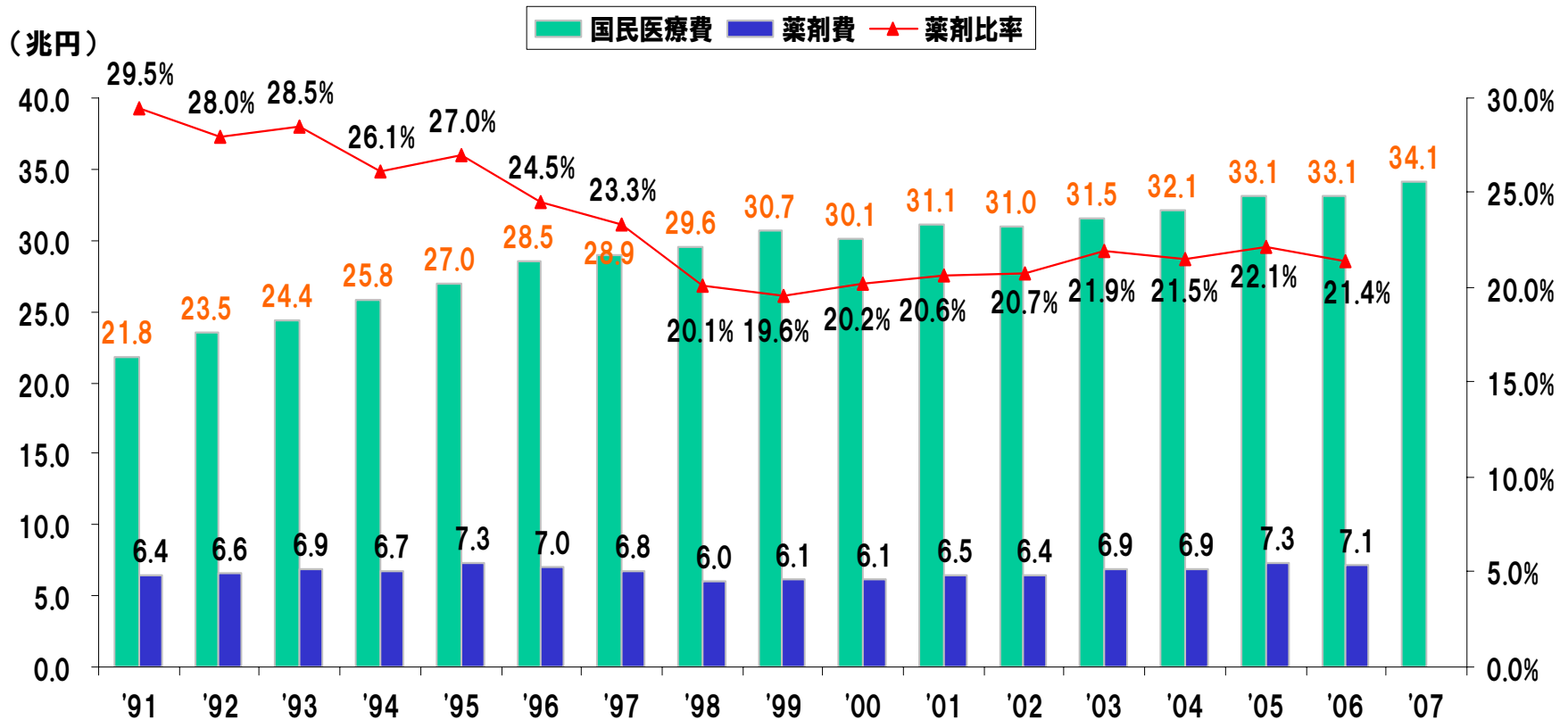


※医薬品市場規模＝出荷金額－輸出金額



# ■ 日本における薬剤費の推移

1990年代からの度重なる抑制策により、日本における薬剤費が伸び悩む中で、製薬企業は研究開発競争を勝ち抜くために、統合や事業再構築などの効率化や海外進出によるグローバル化を進めることで、創薬に必要な研究開発費を確保している。さらに、最近では手元資金を活用した積極的な投資によってパイプラインの充実を図っている。



## ■ まとめ

- **平成22年度予算案の方針(12月15日閣議決定)、特徴**
  - 改定財源5,700億円とその配分(病院と歯科のみ)
  - 薬価等引き下げ▲5,000億円
- **厚生労働省における検討内容と与党の考え方**
- **診療報酬等改定の行方と視点**
  - 大病院、中小病院、各科診療所、歯科診療所、薬局の経営実態と適正配分、点数を上げて医療は良くなる危険も
  - 病院中心の改定は◎、診療所の役割を描けていない面も
  - 財務省との攻防 & 見え難かった健保連(支払い側)の対応
  - 後発医薬品使用促進はさらなる強化へ、その影響は
- **薬価改定等の行方**

薬価調査結果 乖離率8.4% ▲4,800億円、特許が切れた先発医薬品の特例引下げ、(最後の)後発医薬品使用促進策、不採算医薬品の薬価、最低薬価の引下げ、今後の薬価改定方法の見直し必要
- **中医協の行方、診療報酬改定後中医協改革へ**

## ■ 医療サービスの水準

国名	健康達成度(WHO)			総医療費の 国内総生産 (GDP)比 (2007年)	
	健康達成度の 総合評価 (1997年)	健康			
		健康寿命 (2002年)	平等性 (1997年)		
日本	1位	1位	3位	21位 (2006年)	8.1%
フランス	6	11	12	2	11.0%
イギリス	9	24	2	19	8.4%
ドイツ	14	14	20	4	10.4%
アメリカ	15	29	32	1	16.0%

出所:WHO(2002年)、OECD(2009年)

# ■ 医療の質と平等性から見た 保健医療制度の国際評価

## 世界191カ国

日 本	アメリカ	イギリス	フランス	ドイツ
1位	15位	9位	6位	14位

出所:WHO「世界保健機関報告」(2000年)

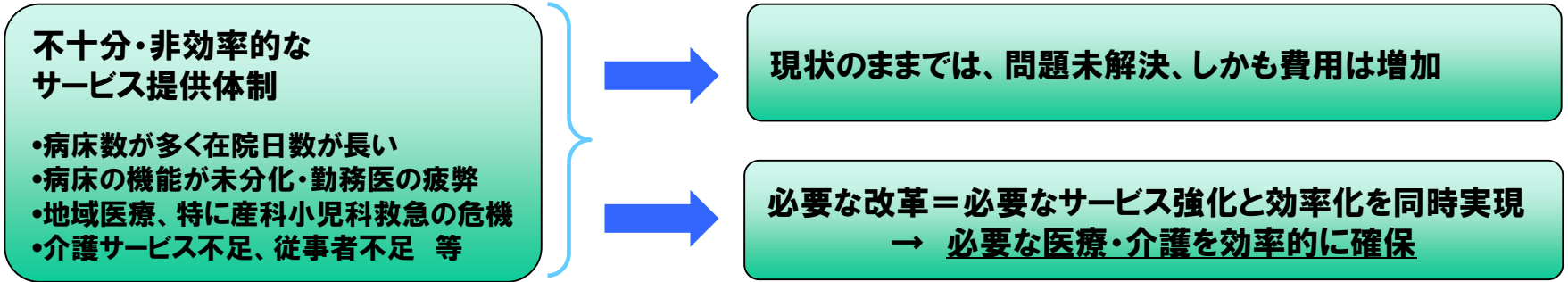
## ■ 医療提供体制の各国比較(2007年)

国名	平均 在院日数 (急性期)	人口 千人当たり 病床数	人口 千人当たり 医師数	人口 千人当たり 看護職員数
日本	19.0	13.9	2.1 (2006)	9.4 (2006)
ドイツ	7.8	8.2	3.5	9.9
フランス	5.3	7.1	3.4	7.7
イギリス	7.2	3.4	2.5	10.0
アメリカ	5.5	3.1	2.4	10.6

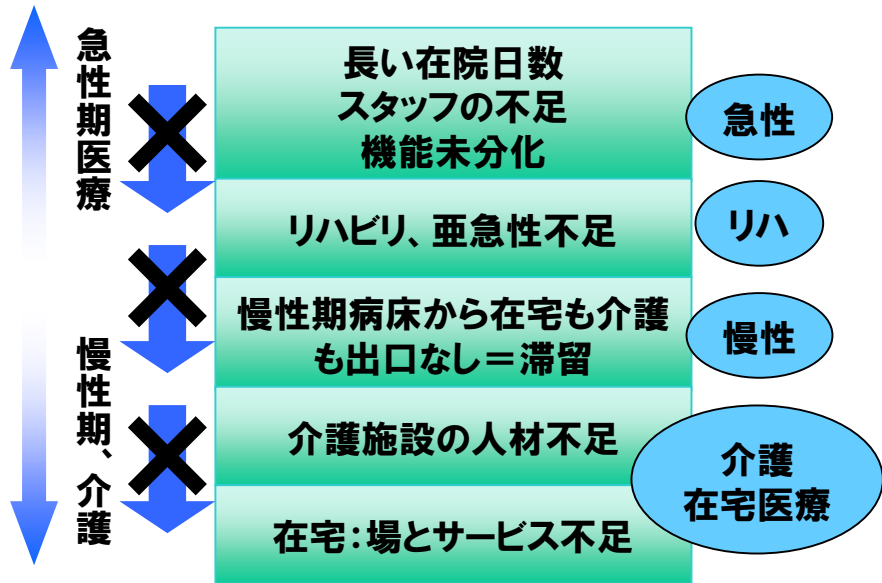
出所:OECD Health Data(2009年)

# 医療・介護サービスのシミュレーションの前提(ポイント)

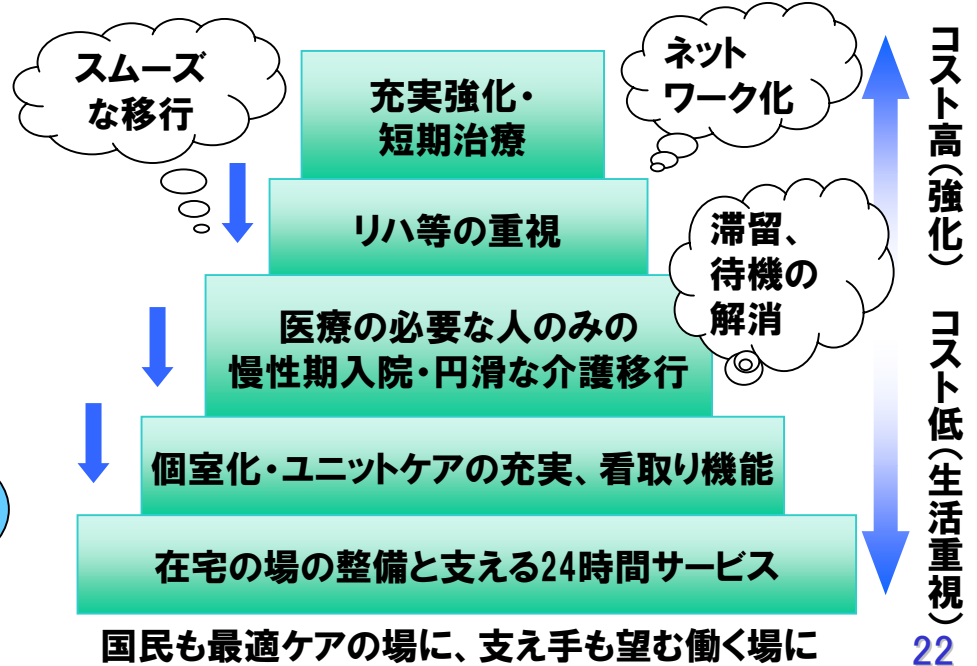
あるべき医療・介護サービスを前提=改革(再生)への道筋を提示 株式会社メディカル一光



## <現状=非効率な資源利用・非最適化>

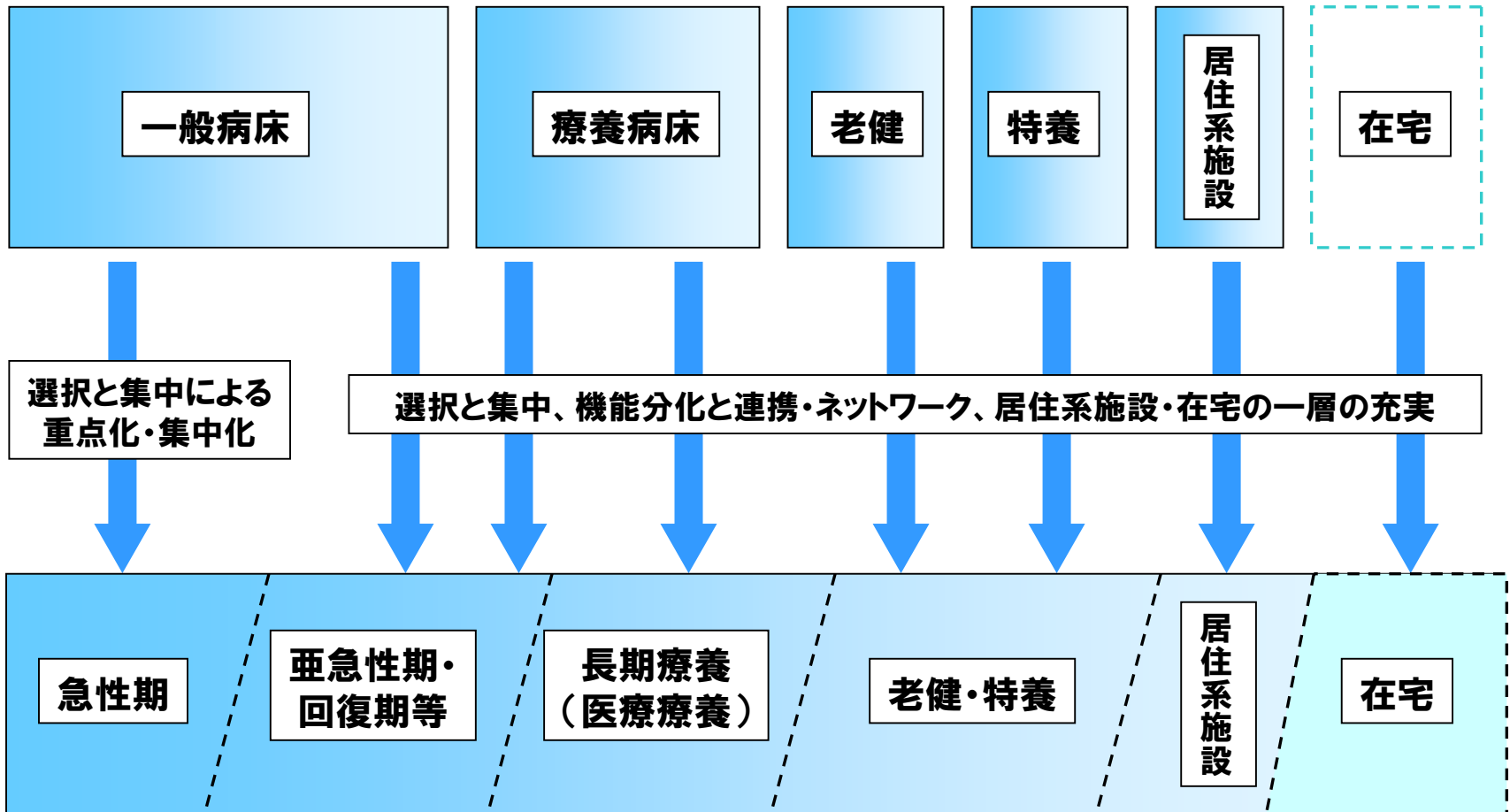


## <将来=充実強化かつ効率的な資源利用>



# 医療・介護提供体制の現状と将来図(イメージ図)

現状: 病床機能の未分化、ニーズに応じた供給の不足



将来像: 選択と集中、機能分化・ネットワーク、居住系施設・在宅の一層の充実

# 医療・介護サービスの需要と供給(一日当たり利用者等) のシミュレーション

	現状(2007年)	2025年			
		Aシナリオ	B1シナリオ	B2シナリオ	B3シナリオ
急性期	80万人/日	104万人/日	56万人/日	47万人/日	高度18万人/日 一般34万人/日
亜急性期・回復期等		〔73万人/日 31万人/日〕	47万人/日	40万人/日	36万人/日
(急性期小計)	(80万人/日)	(104万人/日)	(103万人/日)	(87万人/日)	(88万人/日)
長期療養(医療療養)	22万人/日	36万人/日	21万人/日	23万人/日	23万人/日
介護施設	84万人/日	169万人/日	146万人/日	149万人/日	149万人/日
特養	42万人/日	85万人/日	76万人/日	78万人/日	78万人/日
老健	42万人/日	83万人/日	70万人/日	72万人/日	72万人/日
(老健+介護療養)					
(入院・介護施設小計)	(186万人/日)	(309万人/日)	(271万人/日)	(259万人/日)	(260万人/日)
居住系	25万人/日	47万人/日	68万人/日	68万人/日	68万人/日
特定施設	11万人/日	22万人/日	33万人/日	33万人/日	33万人/日
グループホーム	13万人/日	25万人/日	35万人/日	35万人/日	35万人/日
在宅介護	243万人/日	408万人/日	424万人/日	429万人/日	429万人/日
うち小規模多機能	1~2万人/日程度	数万人/日程度	60万人/日	60万人/日	60万人/日
(居住系・在宅介護小計 うちGH・小規模多機能)	(268万人/日) (14~15万人/日程度)	(454万人/日) (25+数万人/日程度)	(492万人/日) (95万人/日)	(497万人/日) (95万人/日)	(497万人/日) (95万人/日)
外来・在宅医療	582万人/日	634万人/日	631万人/日	644万人/日	643万人/日
利用者総数(重複あり)	(1,036万人/日)	(1,397万人/日)	(1,394万人/日)	(1,400万人/日)	(1,400万人/日)
(参考)総人口	1億2,777万人	1億1,927万人			



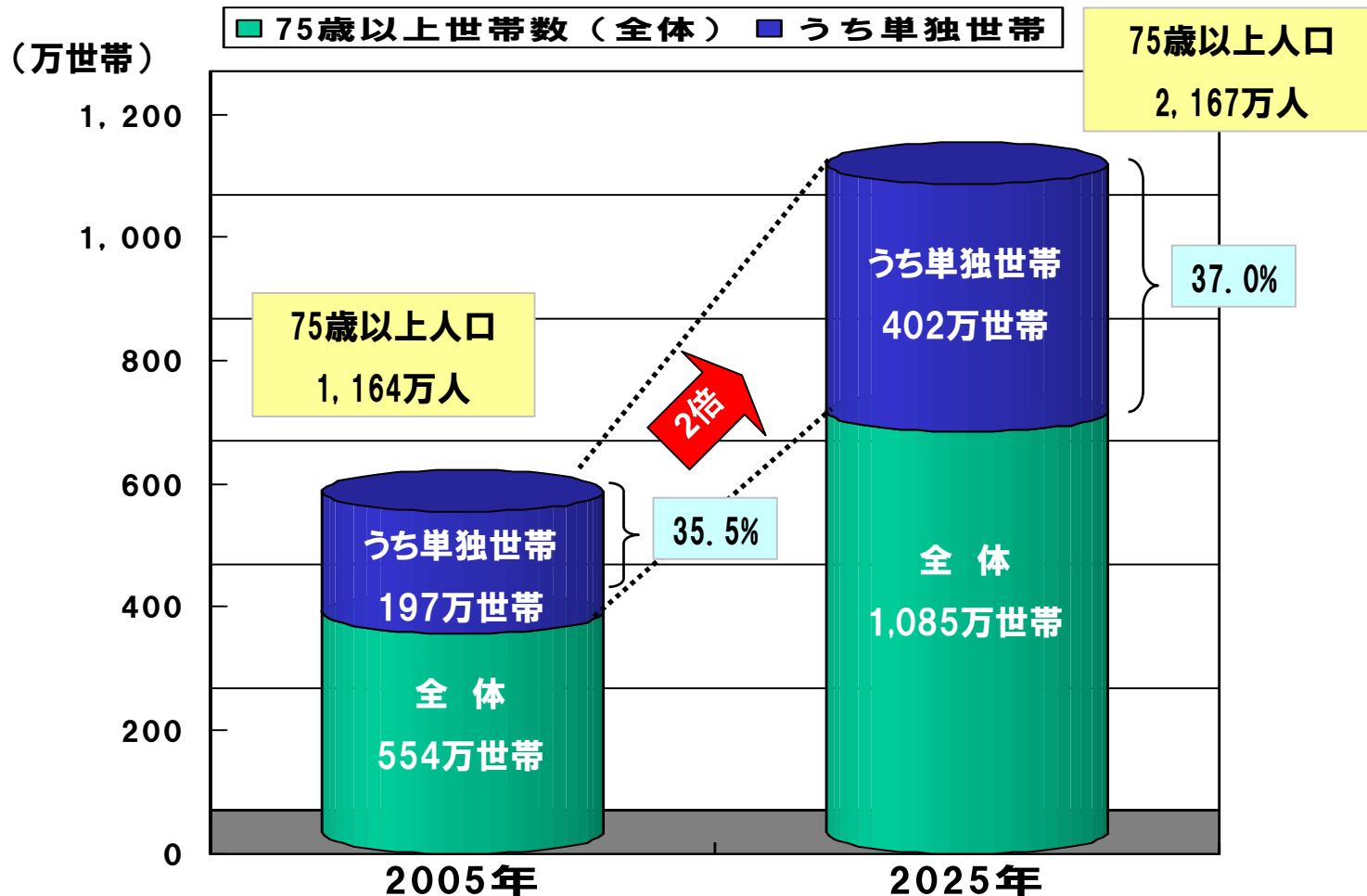
# ■ シミュレーション結果(2025年)

	現状 (2007)	2025年			
		Aシナリオ	B1シナリオ	B2シナリオ	B3シナリオ
医療+介護 対GDP比	7.9% 程度	10.8~10.9% 程度	11.6~11.9% 程度	11.6~11.9% 程度	11.7~12.0% 程度
対NI比	10.7% 程度	14.7~14.8% 程度	15.8~16.2% 程度	15.7~16.1% 程度	15.9~16.3% 程度
名目額	41兆円 程度	85兆円 程度	91~93兆円 程度	91~93兆円 程度	92~94兆円 程度
	現状 (2007)	追加的に必要となる財源(GDP比、消費税率換算)			
		Aシナリオ	B1シナリオ	B2シナリオ	B3シナリオ
自己負担	1.0%				
保険料	3.7%	+1.2% (2%程度)	+1.5~1.6% (3%程度)	+1.5~1.6% (3%程度)	+1.5~1.7% (3%程度)
公費(※)	3.1%	+1.4% (3%程度)	+1.8~1.9% (4%程度)	+1.8~1.9% (4%程度)	+1.8~2.0% (4%程度)

※2015年の財源構成の粗い推計=どのシナリオも公費追加財源は消費税率換算1%程度。

## ■ 高齢者世帯の将来推計

◆ 2025年、75歳以上の独り暮らしは400万世帯超に



## ■ 看取りの場所

年	死亡者総数 (万人)
1955 (S30) 年	69
1985 (S60) 年	75
1990 (H2) 年	82
1995 (H7) 年	92
2000 (H12) 年	96
2004 (H16) 年	102
2005 (H17) 年	108
2006 (H18) 年	108
2007 (H19) 年	110
2008 (H20) 年	114
2030 (H42) 年	160
2040 (H52) 年	166

### 2030(H42)年の看取りの場所

- 仮定 ①医療機関の病床数は増加なし  
 ②介護施設数は現在の2倍増加  
 ③自宅死亡は現在の1.5倍

医療機関 約89万人

介護施設 9万人

自宅 20万人

合計 118万人

160万人 - 118万人 = 42万人

(42万人分の看取り場所が足りない)

## ■ 第26期の開設計画(ヘルスケア事業)



**計画地** 島根県出雲市  
**権利形態** 建物賃借  
**敷地面積** 1,580㎡ (約478坪)  
**建物構造** 鉄骨造、2階建  
**延床面積** 1,693㎡ (約512坪)  
**施設種類** 介護付有料老人ホーム  
**定員** 48名 (全室個室)  
**開設予定** 平成22年8月



**計画地** 三重県いなべ市  
**権利形態** 土地賃借、建物所有  
**敷地面積** 4,667㎡ (約1,411坪)  
**建物構造** 鉄骨造、2階建  
**延床面積** 2,095㎡ (約633坪)  
**施設種類** 介護付有料老人ホーム  
**定員** 50名 (全室個室)  
**開設予定** 平成22年12月



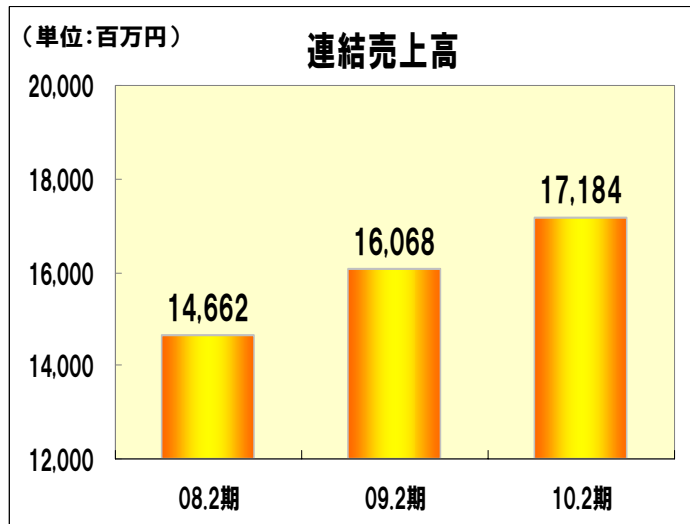
**計画地** 三重県伊賀市  
**権利形態** 土地賃借、建物所有  
**敷地面積** 5,512㎡ (約1,667坪)  
**建物構造** 木造、平屋建  
**延床面積** 2,189㎡ (約662坪)  
**施設種類** 介護付有料老人ホーム  
**定員** 50名 (全室個室)  
**開設予定** 平成23年2月

## **I. 2010年2月期 決算概要**

## **II. 今後の事業戦略等**

## **III. 2010年2月期 決算詳細**

## ■ セグメント別 実績(売上高)



### 【コメント】

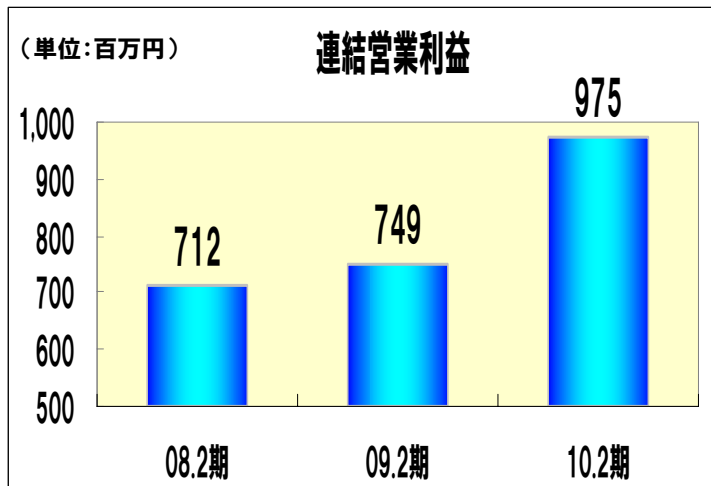
1. 調剤薬局事業～売上増加 957百万円  
(新規店舗に加え既存店が堅調に推移)
2. 医薬品卸事業～ジェネリック使用促進策  
による販路拡大により売上増加
3. ヘルスケア事業～3施設が計画どおり推移

(単位:百万円)

	09年2月期		10年2月期		前期比	
		構成比		構成比	増減額	増減率
【売上高合計】	16,068	100.0%	17,184	100.0%	+1,116	6.9%
調剤薬局事業	15,012	93.4%	15,969	92.9%	+957	6.4%
医薬品卸事業	733	4.6%	837	5.5%	+104	14.2%
ヘルスケア事業	416	2.6%	511	3.0%	+95	22.8%
不動産事業	74	0.5%	73	0.4%	△1	△1.4%
内部売上相殺	167	1.0%	206	1.2%	39	23.4%

(注)各セグメントの売上高は内部売上高を含む

## ■ セグメント別 実績(営業利益)



### 【コメント】

1. 営業利益～前期比+226百万増加  
(売上増加と経費の抑制効果)
2. 調剤薬局事業の売上増加が寄与
3. 各セグメントとも、経費の抑制効果もあり  
前期比増益を確保

(単位:百万円)

	09年2月期		10年2月期		前期比	
		構成比		構成比	増減額	増減率
【営業利益合計】	749	—	975	—	+226	30.2%
【共通経費除く】	1,144	100.0%	1,385	100.0%	+241	21.1%
調剤薬局事業	1,044	91.3%	1,230	88.8%	+186	17.8%
医薬品卸事業	26	2.3%	44	3.1%	+18	69.2%
ヘルスケア事業	41	3.6%	73	5.2%	+32	78.0%
不動産事業	32	2.8%	37	2.6%	+5	15.6%
共通経費	395	34.5%	410	29.6%	+15	3.8%

(注)各セグメントの営業利益は、共通経費を除く

# ■ <連結> 経常利益・当期純利益

(単位:百万円)

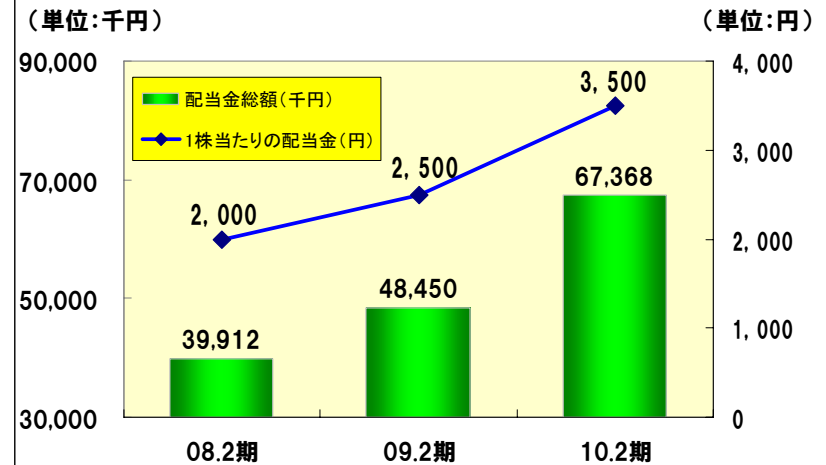
	08年 2月期	09年 2月期	10年 2月期	前期比 増減額
売上高	14,662	16,068	17,184	+1,116
経常利益	639	672	893	+221
当期純利益	289	329	457	+128

## 【コメント】

1. 経常利益・当期純利益は、最高益を更新
2. 1株当たりの配当金 3,500円
  - ①. 普通配当 3,000円 (+500円)
  - ②. 設立25周年記念配当(+500円)

	08年 2月期	09年 2月期	10年 2月期	前期比 増減額
配当総額 (千円)	39,912	48,450	67,368	+18,918
1株当たりの 配当金(円)	2,000	2,500	3,500	+1,000

※09/2期以前の1株当たりの配当金は株式分割修正後に  
置き換え





## ■ <連結> 売上総利益と販管費

### 【売上総利益】

(単位：百万円)

	09年2月期	10年2月期	前 期 比	
			増減額	増減率
売 上 高	16,068	17,184	+1,116	+6.9%
( 材 料 費 )	10,937	11,714	+776	+7.1%
粗 利 益	5,131	5,470	+339	+6.6%
(%)	31.9%	31.8%	-	△0.1%
( 労 務 費 )	2,439	2,528	+89	+3.7%
( 設 備 関 係 費 )	615	612	△2	△0.5%
( 諸 経 費 )	441	459	+18	+4.2%
売 上 総 利 益	1,638	1,870	+231	+14.1%

### 【コメント】

1. 売上総利益～231百万円増加
2. 粗利益の増加～339百万円増加
  - ・売上増加の効果大
3. 原価経費率～3.0%増加に留まる
  - ・労務費、設備関係費、諸経費の効率的な運用

### 【販管費】

(単位：百万円)

	09年2月期	10年2月期	前 期 比	
			増減額	増減率
売 上 高	16,068	17,184	+1,116	+6.9%
売 上 総 利 益	1,638	1,870	+231	+14.1%
( 人 件 費 )	487	504	+17	+3.6%
( 設 備 関 係 費 )	124	130	+6	+5.0%
( 諸 経 費 )	276	258	△18	△6.5%
販 管 費 合 計	888	894	+5	+0.6%
(%)	5.5%	5.2%	-	△0.3%
( 営 業 利 益 )	749	975	+225	+30.1%

### 【コメント】

1. 販管費～前期比5百万円の増加
  - ・間接部門の経費の抑制
2. 人件費～渉外・開発の強化
3. 設備関係費～のれん償却費
4. 諸経費～募集研修費の減少

# 調剤薬局事業 売上原価と売上総利益

- ☆売上高～薬剤料は、1枚当たりの薬剤料単価の上昇により前期比8.0%の上昇
- ☆売上総利益～原価経費（労務費・設備関係費・諸経費）は、前期比2.1%の上昇

（単位：百万円）

	08年2月期		09年2月期		10年2月期		前期比	
	実績	構成比	実績	構成比	実績	構成比	増減額	増減率
売上高 合計	13,687	100.0%	15,008	100.0%	15,965	100.0%	+956	+6.4%
薬剤料	10,607	77.5%	11,686	77.9%	12,617	79.0%	+931	+8.0%
技術料	2,994	21.9%	3,222	21.5%	3,247	20.3%	+24	+0.8%
その他	85	0.6%	98	0.7%	100	0.6%	+1	+1.4%
売上原価 合計	12,436	90.9%	13,660	91.0%	14,456	90.5%	+795	+5.8%
材料費	9,549	69.8%	10,521	70.1%	11,251	70.5%	+729	+6.9%
労務費	2,091	15.3%	2,317	15.4%	2,360	14.8%	+43	+1.9%
設備関係費	480	3.5%	489	3.3%	485	3.0%	△3	△0.7%
諸経費	314	2.3%	332	2.2%	358	2.2%	+25	+7.7%
売上総利益	1,250	9.1%	1,347	9.0%	1,508	9.5%	+161	+12.0%

前期比

+2.1%

# ■ 調剤薬局事業

## 既存店、新規店別の売上と処方箋単価 株式会社メディカル一光

- ・ 調剤売上高 ～前期比 957百万円増（既存店+731百万円、新規店舗+226百万円）
- ・ 処方箋単価 ～前期比、平均単価 666円増加（薬剤料 +635円、技術料 +31円）

### 【売上構成】

（単位：百万円）

	09年2月期			10年2月期			増減額
	実績	構成比	前期比	実績	構成比	前期比	
売上高	15,008	100.0%	+9.6%	15,965	100.0%	+6.4%	+957
既存店	14,557	97.0%	+6.4%	15,288	95.8%	+5.0%	+731
09.2期出店	451	3.0%	—	584	3.6%	+29.5%	+133
10.2期出店	—	—	—	93	0.6%	—	+93
閉局店	0	—	—	1	—	—	—

### 【処方箋単価】

（単位：円）

	09年2月期			10年2月期			増減額
	実績	構成比	前期比	実績	構成比	前期比	
単価平均	9,179	100.0%	+6.6%	9,845	100.0%	+7.3%	+666
薬剤料単価	7,195	78.4%	+7.1%	7,830	79.5%	+8.8%	+635
技術料単価	1,984	21.6%	+4.6%	2,015	20.5%	+1.6%	+31

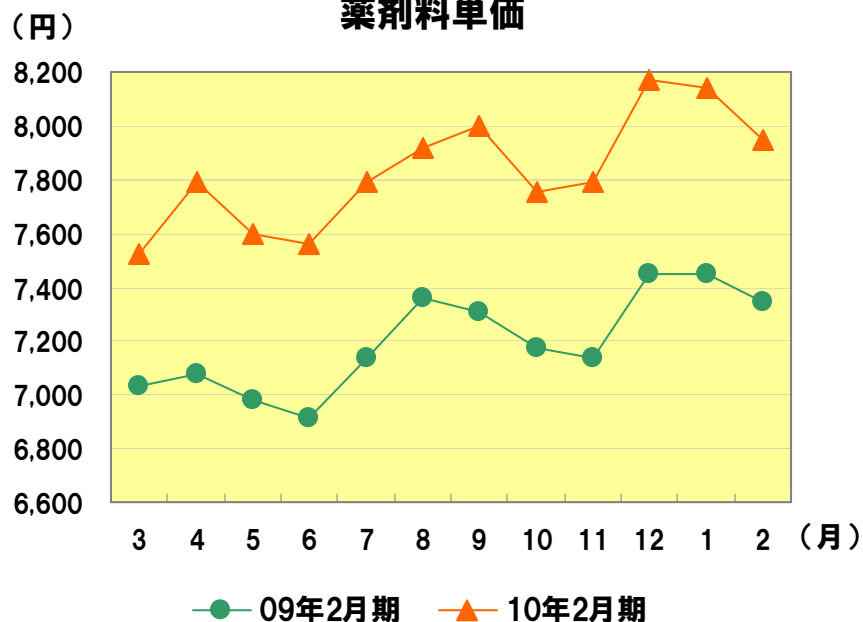
# 調剤薬局事業

## 処方せん枚数と単価の前年比較

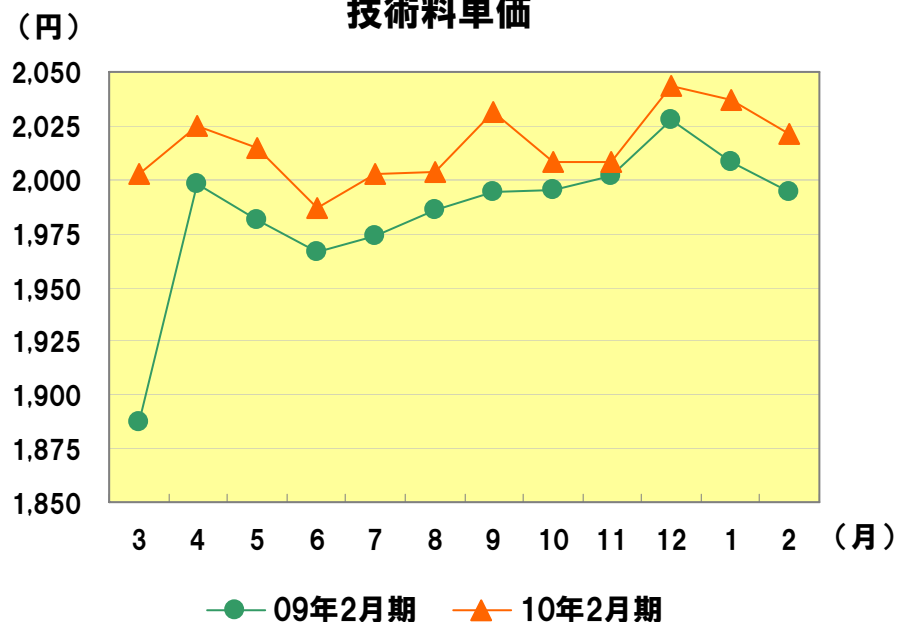
### 【売上構成】

	09年2月期	10年2月期	増減	前年比
処方せん枚数(枚)	1,624,292	1,611,515	△12,777	99.2%
処方せん単価(円)	9,179	9,845	+666	107.3%
薬剤料単価	7,195	7,830	+635	108.8%
技術料単価	1,984	2,015	+31	101.6%

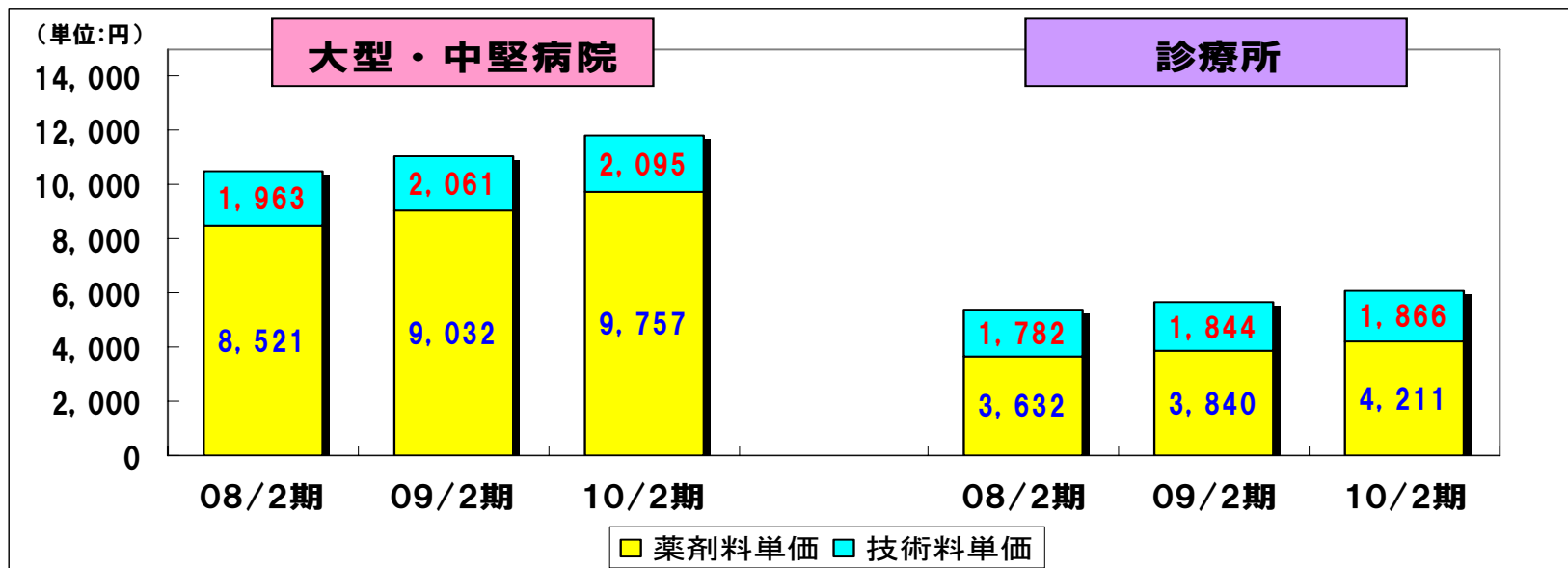
### 薬剤料単価



### 技術料単価



# ■ 調剤薬局事業 (連結) 処方箋単価



大型・中堅病院				
	08/2期	09/2期	10/2期	前期比
店舗数 (期末)	40	42	42	±0
処方箋枚数 (枚)	996,495	1,049,462	1,051,455	+1,993
売上高 (百万円)	10,447	11,710	12,528	+818
薬剤料単価 (円)	8,521	9,032	9,757	+725
技術料単価 (円)	1,963	2,061	2,095	+34

診療所				
	08/2期	09/2期	10/2期	前期比
店舗数 (期末)	29	29	30	+1
処方箋枚数 (枚)	582,695	574,830	560,060	△ 14,770
売上高 (百万円)	3,155	3,298	3,438	+140
薬剤料単価 (円)	3,632	3,840	4,211	+371
技術料単価 (円)	1,782	1,844	1,866	+22

※店舗数は各期末現在

# ■ 2010年2月期 連結BS

(単位:百万円)

	09年2月期		10年2月期		増減額	当期の増減要因
		構成比		構成比		
<b>流動資産</b>	3,946	39.3%	4,540	41.8%	+594	現預金 +463
現預金	1,435	14.3%	1,898	17.5%	+463	売掛金 +98
売掛金	1,715	17.1%	1,813	16.7%	+98	たな卸資産 +23
その他	795	7.9%	827	7.6%	+32	
<b>固定資産</b>	6,100	60.7%	6,321	58.2%	+221	(有)カナエ連結(介護施設) +250
有形固定資産	4,072	40.5%	4,284	39.4%	+212	新店等投資(土地取得を含む) +161
無形固定資産	1,069	10.6%	1,075	9.9%	+6	減価償却費 △220
その他	958	9.5%	961	8.8%	+3	のれん償却 △79
<b>資産合計</b>	10,047	100.0%	10,862	100.0%	+815	(有)カナエのれん +74
<b>流動負債</b>	3,912	38.9%	4,255	39.2%	+343	買掛金の増加 +101
買掛金	2,123	21.1%	2,224	20.5%	+101	未払法人税等 +108
借入金	1,354	13.5%	1,442	13.3%	+88	長期借入金 +137
その他	434	4.3%	589	5.4%	+155	(内、カナエ連結分 +283)
<b>固定負債</b>	3,227	32.1%	3,299	30.4%	+72	
長期借入金	2,876	28.6%	2,926	26.9%	+50	
その他	351	3.5%	373	3.4%	+22	
<b>純資産合計</b>	2,907	28.9%	3,307	30.4%	+400	利益剰余金 +409
<b>負債・純資産合計</b>	10,047	100.0%	10,862	100.0%	+815	自己株式 △25

# ■ 2010年2月期 連結CF

(単位:百万円)

	09年2月期	10年2月期	増減額
営業活動による キャッシュフロー	588	901	+313
投資活動による キャッシュフロー	△422	△214	+208
財務活動による キャッシュフロー	△606	△223	+383
現金等の増減額	△440	462	+903

(単位:百万円)

	09年2月期	10年2月期	増減額
現金等の期首残高	1,868	1,428	△440
現金等の期末残高	1,428	1,891	+463

## 第25期の要因(百万円)

### 【営業活動によるCF】

税金等調整前純利益	+866
減価償却費、のれん償却費	+300
売上債権の増加	△97
仕入債務の増加	+100
法人税の支払い	△326

### 【投資活動によるCF】

有形固定資産の取得	△168
-----------	------

### 【財務活動によるCF】

長短借入金の調達・返済	△149
配当金の支払い	△48
自己株式の取得	△30

### <その他の投資>

H21年3月に(有)カナエを100%子会社化  
(介護付き有料老人ホームの資産会社)  
固定資産257、長期借入金287  
資産合計302

## ■ 主な投資内訳

### 【投資内訳】

(単位:百万円)

	06年2月期	07年2月期	08年2月期	09年2月期	10年2月期	合 計
調剤薬局事業	287	788	647	71	113	1,906
(新店舗等)	287	81	55	71	113	607
(M&A)	—	707	592	—	—	1,299
ヘルスケア事業	0	27	93	324	15	459
メディカルモール	1	89	19	0	0	109
不動産事業他	52	362	29	2	54	499
合 計	340	1,266	788	397	182	2,973

### 【フリー・キャッシュフロー】

(単位:百万円)

	06年2月期	07年2月期	08年2月期	09年2月期	10年2月期	合 計
営業キャッシュ・フロー	605	515	350	588	901	2,959
投資キャッシュ・フロー	△423	△1,215	△927	△422	△214	△3,201
フリー・キャッシュフロー	182	△700	△577	166	687	△242



# ■ 2011年2月期 連結業績計画

(単位:百万円)

	10年2月期		11年2月期		増減額	
	第2四半期	通期	第2四半期	通期	第2四半期	通期
売上高	8,528	17,184	8,643	17,333	+115	+149
営業利益	470	975	415	826	△55	△149
経常利益	413	893	379	750	△34	△143
当期純利益	201	457	193	362	△8	△95

	10年2月期 実績	11年2月期 計画	増減額
調剤薬局事業	15,965	15,970	+5
医薬品卸事業	638	697	+59
ヘルスケア事業	508	592	+84
不動産事業	73	74	+1
<b>売上合計</b>	<b>17,184</b>	<b>17,333</b>	<b>+149</b>

### <調剤薬局事業>

- ・新店舗2店舗のみを計数化
- ・薬価改定を予算化

### <医薬品卸事業>

- ・岐阜支店を開設
- ・計画は内部売上230百万円を除外
- ・薬価改定による売上減少を予算化

### <ヘルスケア事業>

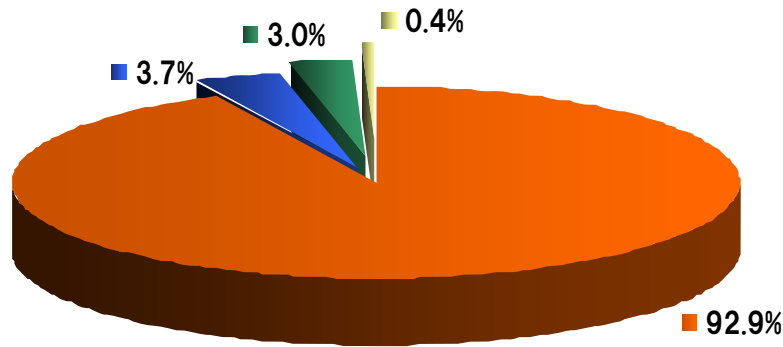
- ・介護施設3施設の開設を予算化
- ・売上増加の大半は翌期に反映される

# ■ セグメント別 売上計画

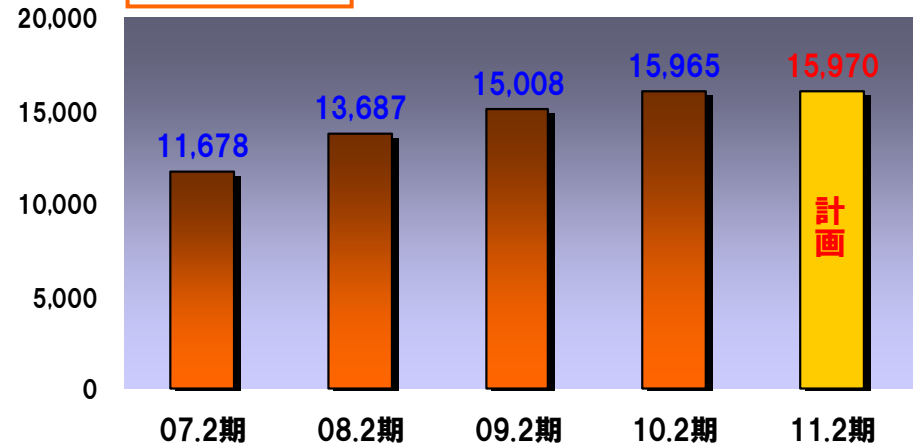


事業部門別売上高推移 (単位:百万円)

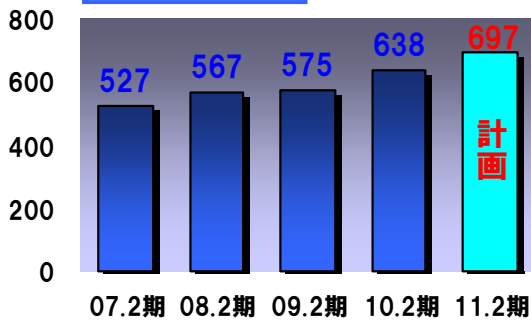
■ 調剤薬局事業 ■ 医薬品卸事業 ■ 介護事業 ■ 不動産事業



調剤薬局事業

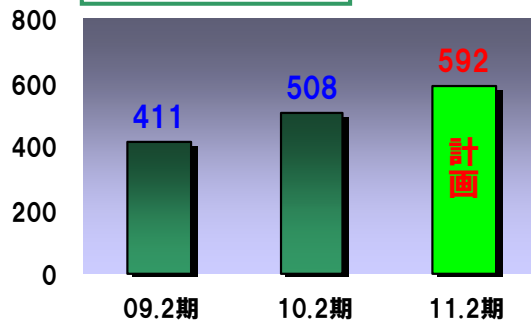


医薬品卸事業

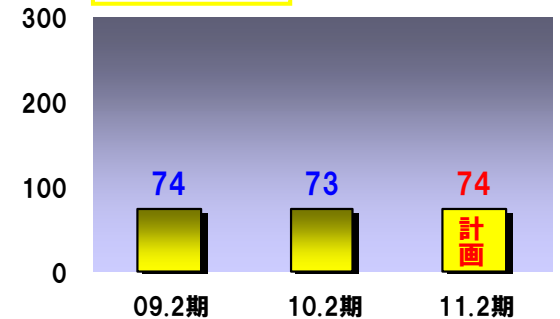


※10.2期は内部売上230百万円除く

ヘルスケア事業

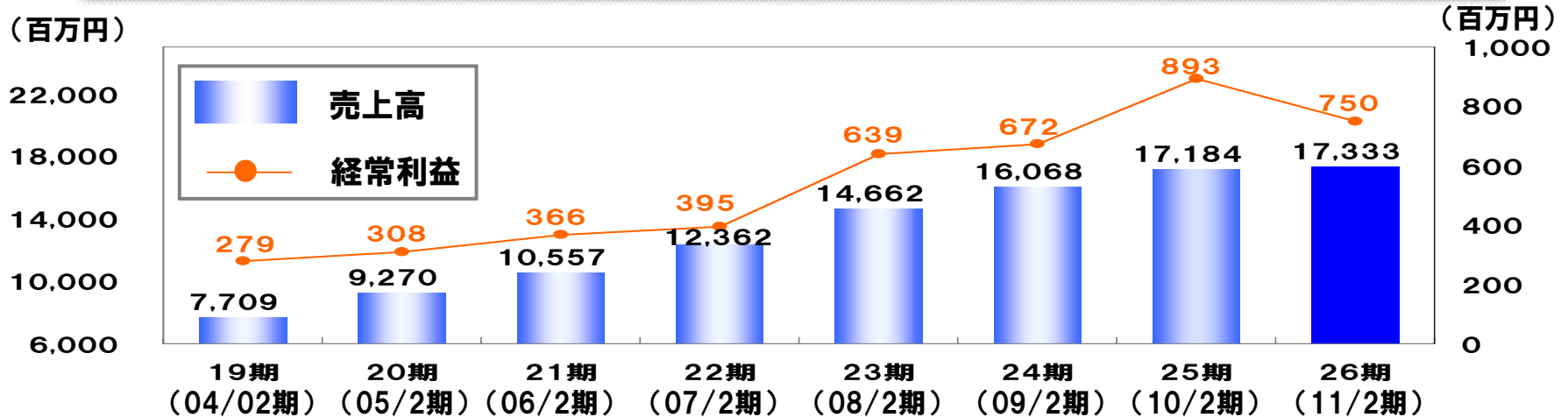


不動産事業



※07.2期から10.2期は実績値、11.2期は計画値

## ■ 中期目標 売上高・経常利益の推移



純資産額 (百万円)	1,639	2,015	2,145	2,101	2,683	2,826	3,307	
1株当たり 配当金(円)	1,500	1,800	1,800	1,800	2,000	2,500	3,500	

※09/2期以前の1株当たりの配当金は株式分割修正後に置き換え

＜計数目標＞ ☆ **第30期（2015年2月期）売上高 300億円、経常利益 20億円を目標**

＜経営計画＞ ☆調剤薬局事業：店舗開発と併せ、M&Aに注力し、規模の拡大を図る

☆ヘルスケア事業：2010年度を初年度として、2013年までの3年間で  
10施設の有料老人ホームを開設する

☆医薬品卸事業：ジェネリック医薬品市場の拡大に即した販路拡大を図る

☆不動産事業：保有資産の有効活用を図る

## ■ お問い合わせ先

**株式会社メディカル一光 IR担当**

**電話:059-226-1193(代表)**

**FAX:059-227-6107**

**E-mail:ir@m-ikkou.co.jp**

**URL:http://www.m-ikkou.co.jp**